

平成29年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 レッドクローバー

1 目的

パラがシンボルとなっている鹿屋市において、香りの良いハーブの生産・販売に取り組みを通じて地域活性化を図るため、新たに若手女性農業者が組織を結成し、多様なハーブの生産を試み、商品化を図った。

2 実施状況

(1) 鹿屋市の気候にあったハーブ生産の試み

ア 作付け計画作成と栽培実証

鹿屋市の気候にあったハーブはどのようなものがあるかを検討するため、レッドクローバー会員のは場ごとに作付け計画を作成し、いろいろなハーブを植え付けた。

イ 定例会の開催

ハーブの生育状況や収量、商品化にむけた検討などを検討するために毎月定例会を開催して情報共有を図った。

(2) ハーブ加工品の開発

ア 加工技術研修の実施

南大隅町のポタニカルファクトリーに依頼し、ハーブ水、ハーブ加工品などのワークショップを実施し、商品化に向けたアイデア収集ができた。

イ ハーブ加工品のテスト販売、アンケートの実施

鹿屋市農業祭に出店し、ハーブティーの試飲やアンケートを実施し、消費者ニーズの把握ができた。

(3) 販路の開拓

鹿屋市内のマックスバリューと販売に向けた検討を行った。生産技術が安定したら、取引を開始できるよう、ネットワーク構築ができた。また、平成30年5月に鹿屋市で開催される大会の実行委員に抜擢された。ハーブ加工品のバイヤー等が全国から集まる予定であり、今後の販路拡大が期待できる。

3 今後の課題、取り組み

現在は、ハーブティー数種、バス用ポプリを商品化しているが、今後は、ハーブと鹿屋市産の農産物をブレンドした新商品開発をおこない、健康志向の高いお客様を取り込んでいきたい。

また、来る全国ハーブサミット鹿屋市大会で新たな販路拡大やネットワーク構築の足がかりを見いだしたい。



ハーブ加工品の開発（ポタニカルファクトリーでのワークショップ）



ハーブ加工品のテスト販売、試飲アンケートの実施（鹿屋市農業祭にて）



ハーブ加工品の一例（左がローゼルティー、右がカモミールティー）